

第1節 高齢化の状況

1 高齢化の現状と将来像

(1) 高齢化率が23.3%に上昇

我が国の総人口は、平成23（2011）年10月1日現在、1億2,780万人であった。

65歳以上の高齢者人口は、過去最高の2,975万人（前年2,925万人）となり、総人口に占める割合（高齢化率）も23.3%（前年23.0%）となった。

65歳以上の高齢者人口を男女別にみると、男性は1,268万人、女性は1,707万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は74.3であり、男性対女性の比は約3対4となっている。

また、高齢者人口のうち、「65～74歳人口」は1,504万人（男性709万人、女性795万人、性比89.2）で総人口に占める割合は11.8%、「75歳以上人口」は1,471万人（男性559万人、女性912万人、性比61.3）で、総人口に占める割合は11.5%である（表1-1-1）。

平成23（2011）年は75歳以上人口が大きく増加している一方で、65～74歳人口が減少している（図1-1-2）。

我が国の65歳以上の高齢者人口は、昭和25（1950）年には総人口の5%に満たなかったが、45（1970）年に7%を超え（国連の報告書において「高齢化社会」と定義された水準）、さら

表1-1-1 高齢化の現状

単位：万人（人口）、%（構成比）

		平成23年10月1日			平成22年10月1日		
		総数	男	女	総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,780	6,218	6,562	12,806	6,233	6,573
	高齢者人口（65歳以上）	2,975	1,268	1,707	2,925	1,247	1,678
	65～74歳人口（前期高齢者）	1,504	709	795	1,517	715	803
	75歳以上人口（後期高齢者）	1,471	559	912	1,407	532	875
	生産年齢人口（15～64歳）	8,134	4,095	4,039	8,103	4,068	4,035
	年少人口（0～14歳）	1,671	855	815	1,680	860	820
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	高齢者人口（高齢化率）	23.3	20.4	26.0	23.0	20.2	25.7
	65～74歳人口	11.8	11.4	12.1	11.9	11.6	12.3
	75歳以上人口	11.5	9.0	13.9	11.1	8.6	13.4
	生産年齢人口	63.6	65.9	61.6	63.8	65.9	61.8
	年少人口	13.1	13.8	12.4	13.2	13.9	12.6

資料：平成23年は、総務省「人口推計」（平成23年10月1日現在）
平成22年は、総務省「国勢調査」（構成比の算出には分母から年齢不詳を除いている）
（注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

に、平成6（1994）年にはその倍化水準である14%を超えた（「高齢社会」と称された）。そして、高齢化率は上昇を続け、現在、23.3%に達している。

(2) 将来推計人口でみる50年後の日本

将来推計人口とは、全国の将来の出生、死亡及び国際人口移動について仮定を設け、これらに基づいて我が国の将来の人口規模並びに年齢構成等の人口構造の推移について推計したものである。以下、平成24（2012）年1月に国立社会保障・人口問題研究所が公表した「日本の将来推計人口」における出生中位・死亡中位推計結果（以下、本節においてはすべてこの仮定に基づく推計結果）を概観する。

ア 9,000万人を割り込む総人口

我が国の総人口は、今後、長期の人口減少過程に入り、平成38（2026）年に人口1億2,000万人を下回った後も減少を続け、60（2048）年には1億人を割って9,913万人となり、72（2060）年には8,674万人になると推計されている（図1-1-3）。

イ 2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上

一方で、高齢者人口は今後、いわゆる「団塊の世代」（昭和22（1947）～24（1949）年に生まれた人）が65歳以上となる平成27（2015）年には3,395万人となり、「団塊の世代」が75歳以上となる37（2025）年には3,657万人に達すると見込まれている。その後も高齢者人口は増加を続け、54（2042）年に3,878万人でピークを迎え、その後は減少に転じると推計されている。

総人口が減少するなかで高齢者が増加することにより高齢化率は上昇を続け、平成25（2013）年には高齢化率が25.1%で4人に1人となり、47（2035）年に33.4%で3人に1人となる。54（2042）年以降は高齢者人口が減少に転じても高齢化率は上昇を続け、72（2060）年には39.9%に達して、国民の約2.5人に1人が65歳以上の高齢者となる社会が到来すると推計されている。総人口に占める75歳以上人口の割合も上昇を続け、いわゆる「団塊ジュニア」（昭和46（1971）～49（1974）年に生まれた人）が75歳以上となった後に、平成72（2060）年

図1-1-2 高齢者人口の対前年度増加数の推移



資料：総務省「人口推計」（各年10月1日現在）より内閣府作成

（注）平成22年及び23年は「平成22年国勢調査」の年齢不詳人口をあん分して含めた人口を基準としている。

には26.9%となり、4人に1人が75歳以上の高齢者となると推計されている。

また、高齢者人口のうち、65～74歳人口は「団塊の世代」が高齢期に入った後に平成28（2016）年の1,761万人でピークを迎える。その後は、43（2031）年まで減少傾向となるが、その後は再び増加に転じ、53（2041）年の1,676万人に至った後、減少に転じると推計されている。

一方、75歳以上人口は増加を続け、平成29（2017）年には65～74歳人口を上回り、その後も増加傾向が続くものと見込まれている（図1-1-4-(1)）。また、前回推計（18（2006）年12月推計）と比較して、高齢化率は低下している（図1-1-4-(2)）。

ウ 年少人口、出生数とも現在の半分以下に、生産年齢人口は4,418万人に

出生数は減少を続け、平成72（2060）年には、48万人になると推計されている。この減少により、年少人口（0～14歳）は58（2046）年に1,000万人を割り、72（2060）年には791万人と、現在の半分以下になると推計されている。

出生数の減少は、生産年齢人口（15～64歳）にまで影響を及ぼし、平成25（2013）年に8,000万人を割り、72（2060）年には4,418万人となると推計されている。

一方、高齢人口の増大により死亡数は増加、死亡率（人口1,000人当たりの死者数）は上昇を続け、平成72（2060）年には、17.7になると推計されている（図1-1-5）。

図1-1-3 年齢区分別将来人口推計

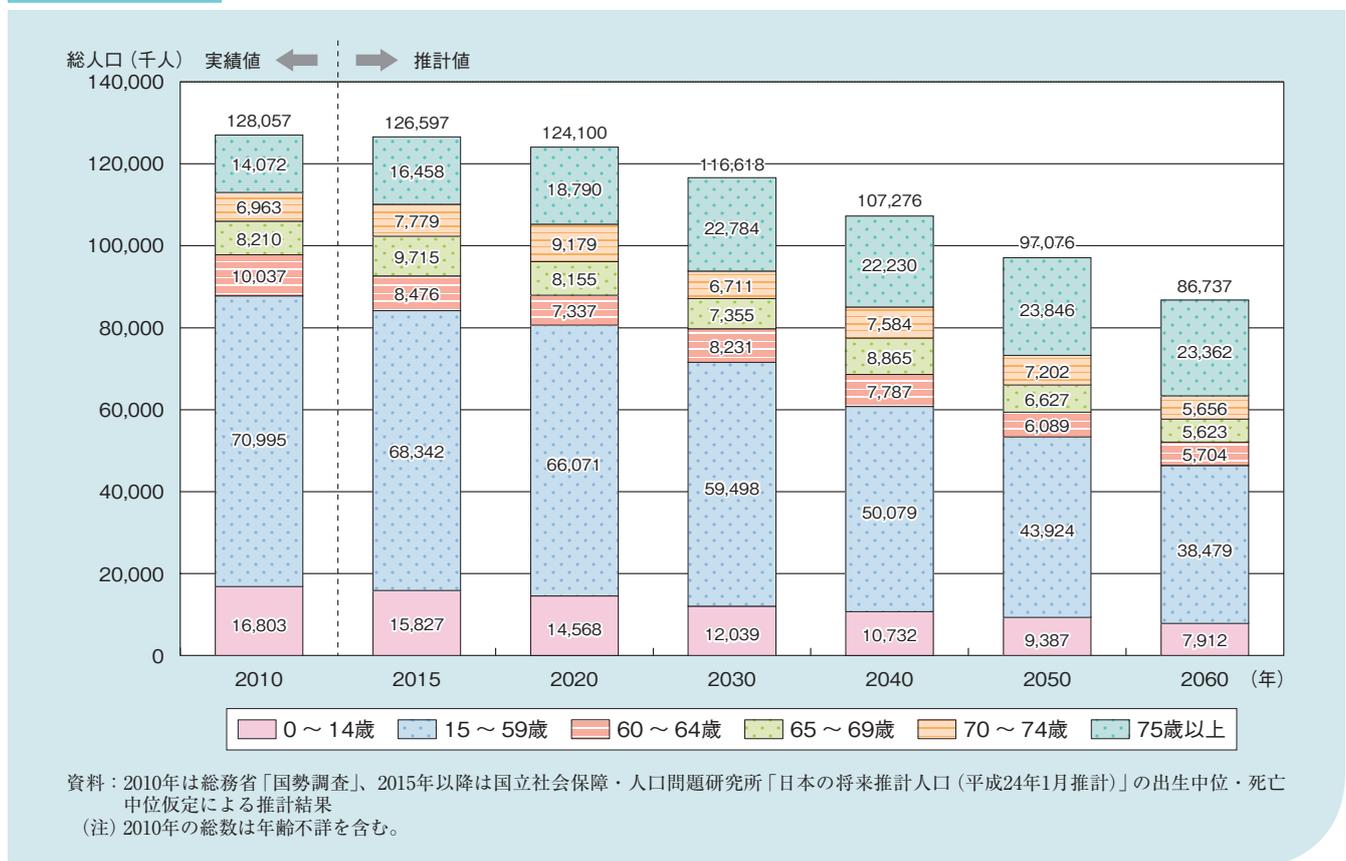
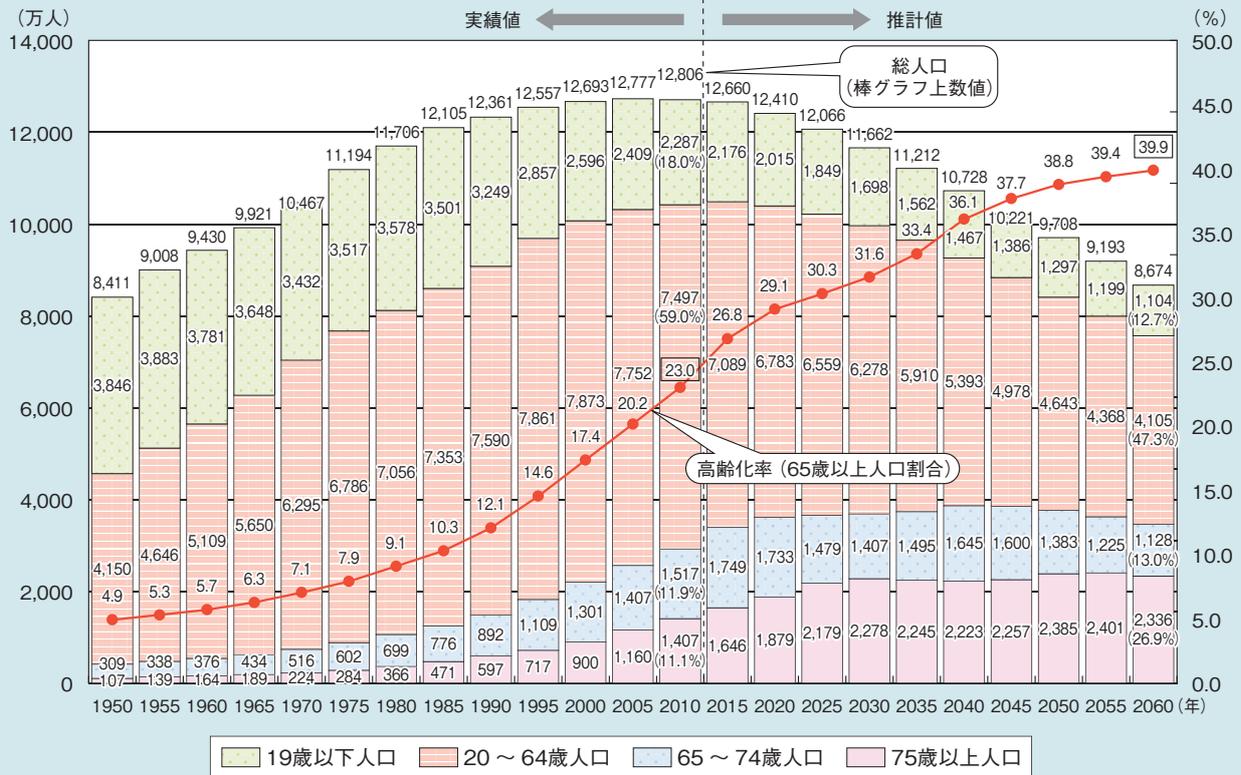
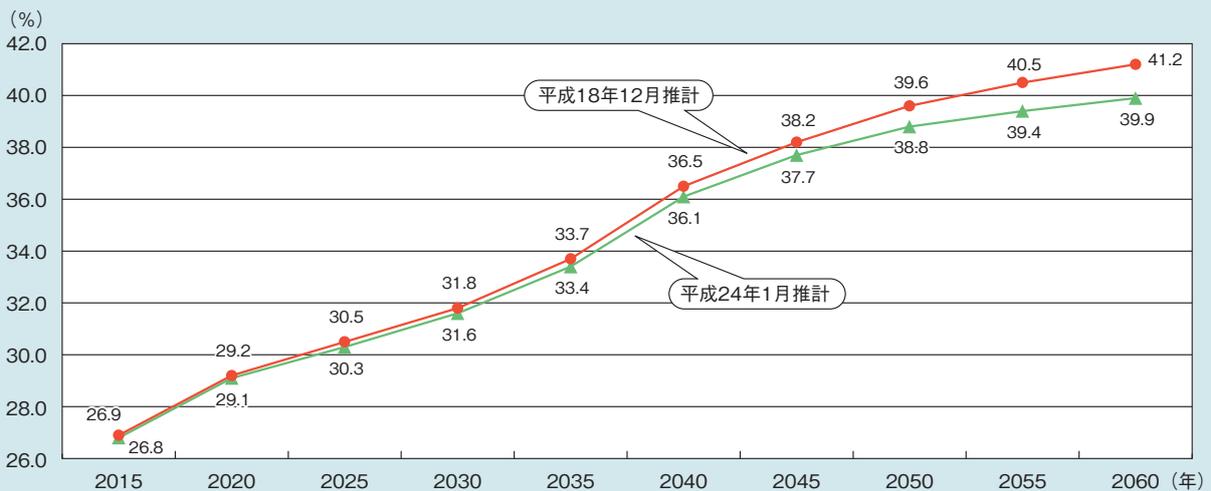


図1-1-4-1) 高齢化の推移と将来推計



資料：2010年までは総務省「国勢調査」、2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果
 (注) 1950年～2010年の総数は年齢不詳を含む

図1-1-4-2) 高齢化率の前回将来推計との比較



資料：2015年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果及び「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」の出生中位・死亡中位仮定による推計結果

エ 現役世代1.2人で1人の高齢者を支える社会の到来

65歳以上の高齢人口と20～64歳人口（現役世代）の比率をみると、昭和25（1950）年には1人の高齢人口に対して10.0人の現役世代がいたのに対して、平成22（2010）年には高齢者1人に対して現役世代2.6人になっている。今後、高齢化率は上昇を続け、現役世代の割合は低下し、72（2060）年には、1人の高齢人口に対して1.2人の現役世代という比率になる。仮に20～69歳を支え手とし、70歳以上を高齢人口として計算してみても、70歳以上の高齢人口1人に対して20～69歳人口1.4人という比率となる（図1-1-6）。

オ 男性84.19歳、女性90.93歳まで生きられる

平均寿命は、平成22（2010）年現在、男性79.64年、女性86.39年であるが、今後、男女とも引き続き延びて、72（2060）年には、男性84.19年、女性90.93年となり、女性の平均寿命

は90年を超えると見込まれている（図1-1-7）。

また、65歳時の平均余命は、昭和30（1955）年には男性が11.82年、女性が14.13年であったものが、平成22（2010）年には男性が18.86年、女性が23.89年となっており、男性、女性とも高齢期が長くなっている。65歳時の平均余命について今後の推移をみていくと、72（2060）年には男性22.33年、女性27.72年となり、高齢期はさらに長くなっていく。

2 地域別にみた高齢化

都道府県別の高齢化率をみると、平成23（2011）年現在の高齢化率は、最も高い秋田県で29.7%、最も低い沖縄県で17.3%となっている。

今後、高齢化率は、すべての都道府県で上昇し、平成47（2035）年には、最も高い秋田県では40.0%を超えて41.0%となり、最も低い沖縄県でも27.7%に達すると見込まれている。ま

図1-1-5 出生数及び死亡数の将来推計

